

Stratacom ATM DataPipe バージョン 3.0

リリースノート



i n v e n t

Stratacom ATM DataPipe リリースノート、バージョン 3.0

ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。
3. 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本製品パッケージとして提供した本書、CD-ROM などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

All rights are reserved.

Restricted Rights Legend.

All rights are reserved.No part of this material may copied, reproduced, or translated to another language without the prior written consent of Hewlett-Packard Company.The information contained in this material is subject to change without notice.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.227-7013 for DOD agencies, and subparagraphs (c)(1) and (c)(2) of the Commercial Computer Software Restricted Rights clause at FAR 52.227-19 for other agencies.

HEWLETT-PACKARD COMPANY
United States of America

Copyright Notices.

© Copyright 2004 Hewlett-Packard Company, all rights reserved.

Reproduction, adaptation, or translation of this material without prior written permission is prohibited, except as allowed under the copyright laws of the United States.

商標

Microsoft®、Windows®、MS Windows®、および Windows NT®は、米国 Microsoft Corporation の米国における登録商標です。その他の製品名は、それぞれの商標またはサービスマーク所有者の財産であり、これによって承認されています。

目次

範囲	4
関連ドキュメント	4
パッケージの概要	5
使用上の注意	5
パッケージの履歴	5
このリリースでの機能強化	6
機能強化	6
既知の問題	7
インストールと設定	8
依存関係	8
パッケージ構造	8
インストール前の手順	9
パッケージマネージャ	9
インストール後の手順	10
Statistics Collection Manager	12
統計の設定と有効化	12
テクニカルサポート	14

範囲

このリリースノートでは Stratacom ATM DataPipe バージョン 3.0 のインストール手順について説明しています。インストール手順では、Stratacom Preprocessor に伴う前提条件、依存関係、およびインストール後の手順について説明しています。また、最新の機能強化と既知の問題についても説明しています。

関連ドキュメント

- 1) 『ATM ReportPack ユーザーガイド』
- 2) 『ATM ReportPack リリースノート』
- 3) 『Stratacom Preprocessor and Stratacom Datapipes ユーザーガイド』
- 4) 『Stratacom Preprocessor リリースノート』
- 5) 『Statistics Collection Manager User Guide』(Cisco Systems)

パッケージの概要

Stratacom ATM Datapipe は、Stratacom デバイスからパフォーマンスデータを収集します。次のタスクを実行します。

- PVC およびポートデータ用のレートテーブルを作成する
- Stratacom Preprocessor からデータファイルをインポートして解析する
- データファイル进行处理する
- レートテーブルにデータを入力する
- レートテーブルから ATM ReportPack のベーステーブルにデータをマッピングする

Stratacom ATM DataPipe は次の 2 つの TREND 実行可能ファイルを呼び出します。

- ee_collect
- trend_sum

データが ATM ReportPack のベーステーブルに達すると、さらに要約が行われ、時間単位、日単位、および月単位のレポートが生成されます。

使用上の注意

ATM ReportPack と Stratacom Preprocessor には依存関係があります。これら両方のパッケージをインストールしてから、Stratacom ATM DataPipe をインストールしてください。

パッケージの履歴

バージョン	変更の簡単な概要
1.0 Alpha	初回リリース
1.1	社内リリース
2.0	trendstep の代わりに trendmapper を使用
3.0	Oracle および Sybase の両方のデータベースをサポート

このリリースでの機能強化**機能強化**

- Oracle および Sybase の両方のデータベースをサポート
- trendmapper の代わりに trend_sum を使用して、データパイプのレートテーブルからレポートパックのベーステーブルにデータを要約
- バグ修正

バージョン番号	バグ番号	説明
1.0	NA	NA
1.1	NA	NA
2.0	NA	NA
3.0	NA	NA

既知の問題

バージョン 3.0 では既知の問題はありません。

インストールと設定

圧縮配布ファイルに関連するインストール前の標準的な手順に加えて、Stratacom Preprocessorに関連するインストール前の非標準的な手順がいくつかあります。詳細は、後述の説明を参照してください。

パッケージマネージャを使用して Stratacom ATM DataPipe をインストールします。インストール後、Stratacom Preprocessor の設定ファイルをインストールします。

依存関係

次の2つの依存関係があります。

- ATM ReportPack
- Stratacom Preprocessor

必要に応じて、3つすべてのパッケージを同時にインストールすることもできます。これらのパッケージを別々にインストールする場合は、先に ATM ReportPack と Stratacom Preprocessor をインストールした後に、Stratacom ATM DataPipe をインストールしてください。

パッケージ構造

次の表では、パッケージにあるファイルの機能と、パッケージから呼び出される TREND 実行可能ファイルの役割について説明しています。

ファイル/実行可能ファイル	機能
.pro ファイル	ee_collect and trend_sum を呼び出します。
.sum ファイル	trend_sum 用のディレクティブを提供します。
ee_collect	Stratacom Preprocessor からデータファイルをインポートします。
.teel ファイル	レートテーブルの作成と設定を行います。
trend_sum	データをレートテーブルからベーステーブルに循環させます。

パッケージには上記のファイル一式が2組含まれています。1つはPVCデータ用で、もう1つはポートデータ用です。パッケージのインストール中、これらのファイルが、次のように \$DPIPE_HOME 配下のディレクトリにコピーされます。

ファイル	インストール後の場所
.pro	\$DPIPE_HOME/scripts
.sum	\$DPIPE_HOME/scripts
.teel	\$DPIPE_HOME/lib

インストール前の手順

次の手順を実行します。

1. RNS5.0 の製品 CD からパッケージを展開します。
2. パッケージディレクトリを調べて、Stratacom ATM DataPipe 用の新しいディレクトリが存在することを確認します。

パッケージマネージャ

パッケージマネージャを使用してパッケージをインストールします。インストール中、パッケージマネージャは次を実行します。

- データテーブルとストアードプロシージャを作成
- いくつかの行を trendtimer.sched ファイルに追加
- 各種のファイルを packages ディレクトリから \$DPIPE_HOME にコピー

ATM DataPipe をインストールするには、次の手順に従います。

1. *trendadm* としてログインします。
2. OVPI Timer プロセスを停止します。
3. パッケージマネージャを起動します。パッケージマネージャのインストールウィザードが開きます。
4. [次へ]をクリックします。[OVPI パッケージの場所]ウィンドウが開きます。
5. [インストール]ラジオボタンをクリックします。
6. デフォルトのディレクトリを承認するか、別のインストールディレクトリを選択します。必要に応じて参照機能を使用します。
7. [次へ]をクリックします。[OVPI レポートの配布]ウィンドウが表示されます。
8. DataPipe だけをインストールする場合は、[OVPI レポートの配布]を選択解除します。ATM ReportPack と DataPipe の両方をインストールする場合は、デフォルトを受け入れてレポートを配布します。デフォルトのアプリケーションサーバーおよびポートを受け入れます。OVPI ユーザー名とパスワードを入力します。
9. [次へ]をクリックします。[OVPI パッケージの選択]ウィンドウが表示されます。
10. [Stratacom ATM DataPipe version 3.0]を選択します。

11. [次へ]をクリックします。[OVPI タイプ検出]ウィンドウが開きます。デフォルトのまま[次へ]をクリックします。
12. [概要]ウィンドウが表示されます。このウィンドウの内容が正しいことを確認します。
13. [インストール]ボタンをクリックしてインストールプロセスを開始します。完了バーが画面下に表示され、進捗が示されます。インストールが完了すると、インストール完了メッセージが表示されます。
14. [完了]をクリックしてパッケージマネージャを閉じます。
15. OVPI Timer プロセスを再起動します。

手順 13 の実行中に問題が発生した場合は、[詳細]ボタンをクリックしてログビューアにアクセスすることで問題に関する詳細を確認できます。ログビューアの内容に基づいて問題を修正することができない場合は、テクニカルサポートに連絡してください。

インストール後の手順

Stratacom ATM DataPipe をインストールした後、次の作業を実行します。

- Stratacom Preprocessor の設定
- プロパティ情報のインポート

Stratacom Preprocessor の設定

Stratacom ATM Datapipe で必要になる統計値がサポートされるように Stratacom Preprocessor を設定します。これらの統計値は Stratacom デバイス上で有効にしてください。統計値がデバイスから一括統計ファイルを通じて使用することができない場合は、NULL 値が使用されます。

Stratacom Preprocessor 用の設定ファイルは Stratacom DataPipe に付属しています。これらのファイルによって、提供されている TEEL ファイルを通じて ATM ReportPack のテーブルを設定するのに必要な統計値が指定されます。それ以外の統計値を設定することもできますが、対応する変更を TEEL ファイルに加える必要があります。Stratacom Preprocessor 用の設定ファイルは、該当するディレクトリに手動でインストールする必要があります。

詳細については、『Stratacom Preprocessor and Stratacom Datapipes ユーザーガイド』を参照してください。

プロパティ情報のインポート

ATM ReportPack 内のレポートにカスタムおよび場所情報を設定する必要がある場合は、プロパティファイルを作成し、OVPI 所定の場所({DPIPE_HOME}/data/PropertyData)にそれらのファイルを置く必要があります。プロパティインポートファイルとプロパティインポートプロセスの詳細については、『ATM ReportPack ユーザーガイド』を参照してください。

インポートデータディレクトリ

RNS 5.0 では、ee_collect のインポートデータファイルを{DPIPE_HOME}/data/ImportData/<データパイプ固有のディレクトリ>に置く必要があります。

Stratacom ATM Datapipe の場合、ディレクトリは次のとおりです。

{DPIPE_HOME}/data/ImportData/Stratacom

インポートデータディレクトリはデータパイプのインストール中に作成されます。

Statistics Collection Manager

ここで説明する内容は次の場所からの抜粋です。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/rtrmgmt/cwm/9_2_00/ops/stat_mgr.htm

この情報が正確であることを前提としています。詳細については、SCM のマニュアルを参照してください。

Statistics Collection Manager を起動すると、次の画面が表示されます。

```

StrataView Statistics Manager (nmult)
File Config Pane Help

Status Display:
Current Status:          COLLECTING
Time-out Period (secs)  60
Maximum Concurrent Requests 3
Maximum Requests Per Subnet 3
Delay Between Requests (secs) 0
Max Packets/Second (0 = no limit) 0
Statistics Collection Period (mins) 60
Bucket Interval (mins) 60
Time Synchronization Node (nodename)
Temporary Statistic File Directory /usr/users/svplus/spool
Incoming Statistic File Directory /usr/users/svplus/incoming
Purge Old Files (days) 1
Number of History Files to Get 3
Purge Old Stats after (hours) 24
Auto Enable             ON

Outgoing Requests
May 15 18:07:23 1998  svlbp14 Manager GET  svlbp24 0515001040 Req
May 15 18:13:47 1998  svlbp20 Manager GET  svlbp28 0515001040 Req
May 15 18:14:24 1998  svlbp13 Manager GET  svlbp13 0515001040 Req
May 15 18:14:34 1998  svlbp55 Manager GET  svlbp55 0515001040 Req

Incoming Responses
May 15 18:07:31 1998  svlbp24 CHLID GET  svlbp24 0515001040 RSP
May 15 18:13:41 1998  svlbp28 CHLID GET  svlbp28 0515001040 RSP
May 15 18:14:46 1998  svlbp23 CHLID GET  svlbp23 0515001040 RSP
May 15 18:14:48 1998  svlbp55 CHLID GET  svlbp55 0515001040 RSP

Errors
May 15 18:07:23 1998  svlbp10 0515001008 Node=svlbp20 NOT to be released and is complete!
May 15 18:07:27 1998  svlbp23 0515001008 Node=svlbp20 This node does not have stats enabled at all
May 15 18:07:27 1998  svlbp23 0515001008 Node=svlbp20 NOT to be released and is complete!
May 15 18:07:31 1998  svlbp14 0515001008 Node=svlbp24 This node does not have stats enabled at all
May 15 18:07:31 1998  svlbp14 0515001008 Node=svlbp24 NOT to be released and is complete!

```

統計の設定と有効化

統計は、[Config]タブの[Stats Enable Menu]オプションを使用して有効にします。

Stratacom ATM Datapipe では次の統計値を有効にする必要があります。それ以外の統計値についても、他のアプリケーションや他の DataPipe で使用できるように有効にすることができます。

ATM PVC(ASI 接続)の統計値

数値	名前
29	Cells Rx Port
32	CLP Rx Port
34	Discard CLPth Rx Port
35	Discard Qfull Rx port
39	Discarded failed Rx port
42	Discarded rsrc overflow Rx port
43	Discard sbin full Rx port
45	Cells Tx port
47	Discarded Qbin full
49	CLP Tx port
55	Cells Rx discarded due to rsrc overflow
56	Cells Rx discarded due to VC thresh vol

ATM ポート(ASI ポート)の統計値

数値	名前
0	Unknown VPI/VCI
7	Number of Cells Received
11	Number of Cells Transmitted
35	Invalid LMI Rx
36	Invalid LMI length Rx
37	Unknown LMI Rx
38	Invalid LMI IE Rx
39	Invalid Transaction IDs
65	Cells Rx with CLP 0 discarded
66	Cells Rx with CLP discarded

「Statistics Enable Files」の送信

すべての統計値を選択したら、[Config]タブの[Select Nodes]オプションを使用して「Statistics Enable Files」をすべてのデバイスに送信する必要があります。

テクニカルサポート

次の HP OpenView の Web サイトを参照してください。

<http://openview.hp.com/> (英語)

<http://www.hp.com/jp/openview/> (日本語)

このサイトには、HP の提供する製品、サービス、サポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。[サポート]をクリックすると HP OpenView のサポートページに移動します。このページから次の情報を参照できます。

- ダウンロード可能なマニュアル
- トラブルシューティング
- ソフトウェアパッチ
- 問題報告
- トレーニング
- サポートニュース